

皆さんは「二者択一」を迫られたらどちらを選びますか。イエスの裁判の場面でも、総督ピラトが、民衆に二者択一を迫ります。ピラトが「二人のうちどちらを釈放してほしいのか（イエスカ、バラバか）」と尋ねます。人々は「バラバを」と答え、イエスが十字架につけられます。人々は「イエスを」と答えるべきだったのでしょうか。十字架の死が必要だから、「バラバを」だったのでしょうか。

権力者が「二者択一」を迫るとき、「その選択肢はおかしい」と言わなければならないときがあります。それは権力者にとって「わがままだ、選択肢を与えてやっているのに」ととられるでしょう。

わたしが育った沖縄島宜野湾市には市の中心に米軍の普天間飛行場があります。市の¼が飛行場

にお礼の額を決めて支払う）を導入したこと、また、平和運動に熱心な消費者から、「あなたはもつと革新的に市民活動に出るべきだ」と言われ、返事に窮したことなどを訥々と述べておられました。「農」に携わる金子さんを感しました。

あるいは最近の米価高騰に直面してはじめて長い年月の間農家ではお米を育てるために要する費用が、これまでの売値によつては賄うことができなかったことを知る人が出てきました。長い間価格を決めることもできずに黙して離農せざるを得なかった農民も「農」に連なっていたでしょう。

さて「農」をあえて神学という領域において、論ずるならば自然神学とか環境の神学としてでしょうか？、その際「農」と

という言葉は、「神学」の下位領域にある一対象として論じられることになるでしょう。はたしてその論者の生活からくる視点は資本主義経済における公正な、社会主義的経済？を前提としているのでしょうか？

そもそも「農」には、言語の分節性、あるいは観念的な表現にはなじみがたい何かがあるからだと、経験をふまえて思われます。そこに「農本思想」が誤解の中に埋もれ、無理解のままである要因があるのではないかと思われること頻りです。

【学事報告】

◇3月5日（水）第75回卒業式
2名の学生が卒業
◇4月9日（水）第77回入学式
5名の学生が入学
◇4月10日（木）新人生オリエンテーション

やり片方を捨てようと思わせる力が働くとき、その選択肢を疑わないといけない」と気づいてきました。「二者択一」は、社会や権力が求めてくることが少なくありません。「社会のためにどちらかを捨てなさい」と言ってくることがある、そのとき「この二者択一は正しいの？」と考えるべきです。

同時に、キリスト教に誤ちはないとし、「聖書は、…「神はこれを選択しろ」と言っているとして、考えることを放棄するのも危険です。葛藤をやめたとき、キリスト教は死んだ宗教になるのではないのでしょうか。

神と人どちらを愛することが大切か。（マタイ22章34節以下）両方です。二者択一ではありません。しばしば「神を優先にすべき」と言われることがあります、それは間違いいではないでしょうか。両方を一番にしないといけません。イエスは、1番目に神を、2番目に自分を愛するように隣人を愛せ、ではなく、この2つが一番大切だ（マタイ22章40節）、と言われました。おそらく当時のユダヤ人社会で、人をおろそかにしてでも神を愛せ、と考えられていたのでしょうか。そこで、律法をやぶつても人に寄り添ったイエスの姿勢は、神をおろそかにしていると見られたのでしょうか。しかし、イエスが



2025年4月9日入学式礼拝 「二者択一？」 マタイによる福音書27章21～22節 校長 平良愛香



安全保障関連法廃止！
辺野古新基地建設反対！

いたいただきます。異動など変更のある同窓生の方がおられましたら、神学校事務までご連絡いただければ幸いです。

*逝去
◇滝澤佐和子（保育科3期生）
2月8日逝去（87歳）
◇興水正人（神学科15回卒）
隠退教師5月2日逝去（88歳）
*異動
◇高柳研二（神学科75回卒）
萩教会主任担任教師就任
◇池田昌功（神学科75回卒）
拝島平安教会担任教師就任
◇川浦弥生（神学科68回卒）
札幌元町教会主任担任教師就任
◇島耕一（神学科53回卒）
鶴川教会主任担任教師就任
◇反町潤平（神学科61回卒）
八雲教会辞任
◇三河豊（神学科45回卒）
信濃村教会辞任

示したのは、「神と人、両方を愛する」ことです。神と人、どちらかを優先すべきだと迫る二者択一は、それ自体が誤りです。

新入生の皆さんは、農村伝道神学校に入学することを選びました。在校生の皆さんもです。それは、「神学校に入学する」という選択をしてきたことでもあります、数ある神学校の中で「農伝を選んだ」ということでもあります。真剣に祈って選んだ道なら、どんな道であっても神は祝福していると信じます。

神学校に入学してからも「本当にこの道でいいのだろうか」と悩むことはきつとあるでしょう。その都度、「神さま、道を示してください」と祈る者でありたいものです、また、他者のために祈る者でありたいものです。

【農村伝道研究室】
教師 池迫直人

前号で「農本思想と農村伝道」についてお知らせを差しあげました。今回は、その要旨をここに随想的にご紹介します。

「農本思想」とは、資本主義に対抗して現われた言葉です。ですから言い換えるならば「農」は資本主義、あるいは貨幣経済至上主義になじまない、人と被造世界の調和的な関係のあり方を表わしているといえます。「農」は貨幣欲の基準により一交換価値にされることを拒むのです。

30年以上前、YMCA農村青年塾にアジア学院から職員として参加しました。講師の金子美登さんは、産直で代価にお札制（生産者は価格を決めず、消費者

2026年度入学案内

■受験資格
(1)キリスト教会に所属し、原則として受洗後1年以上の教会生活をしている者。
※洗礼式を行わない教派については、その教派で定められたところによる。
(2)所属教会が推薦し、高卒または同等以上の学力を有すると認められる者。

■修学年限
*神学基礎コース(2年間)
*神学専門教職者養成コース(2年間)
*神学専門コース信徒宣教師養成コース(1~2年間)

■学費
入学金 60,000円
授業料 240,000円
設備費 30,000円 (入学時のみ)

■奨学金
年支給額24万円以下（最高額）
※詳細については規定による。

■受験手続
下記書類を期日まで郵送または持参する
(1)入学願書(本校指定書式)
(2)履歴書(本校指定書式)
(3)教会の推薦書(牧師または役員会)
(4)最終学校卒業証明書(または見込証明書)
(5)受験料10,000円(振込)

■入学願書受付
第1回 2025年10/21 ㊗-11/7 ㊗
第2回 2026年1/5 ㊗-1/31 ㊗

■入学試験日程
第1回 2025年11/10 ㊗
第2回2026年2/9 ㊗

■会場
本校教室

■入学試験科目
(1)小論文(2)旧約聖書・新約聖書(3)面接
※入学願書一式・過去の試験問題集は本校事務室まで請求ください(無料)。

【同窓生個人消息】

◇任地が変わった等で掲載可の連絡の取れた方を記載させて

ンテーション
◇始業講演「歴史の総括」に向けて――「本校の使命」の考察――瀬戸英治特任教師
◇4月11日、14日、21日黙想入門講座（オリエンテーション）
◇4月30日（水）環境改善ワークショップ
◇5月19日～20日 一泊坐禅会

【理事・評議員会】

この3月26日（金）に本年度第4回目の理事会と評議員会が開催されました。今回は改正前の寄附行為で行う最後の会議となりました。新寄附行為では評議員や監事のチェック機能が強化され、適正な運営を目指します。

オンライン授業について、随時対応ははじめました。詳細は本校事務までお問い合わせください。
〒195-0063 町田市野津田町 2024 番地
農村伝道神学校
電話：042・735・5775
e-mail：noden@pony.ocn.ne.jp

いたいただきます。異動など変更のある同窓生の方がおられましたら、神学校事務までご連絡いただければ幸いです。

*逝去
◇滝澤佐和子（保育科3期生）
2月8日逝去（87歳）
◇興水正人（神学科15回卒）
隠退教師5月2日逝去（88歳）
*異動
◇高柳研二（神学科75回卒）
萩教会主任担任教師就任
◇池田昌功（神学科75回卒）
拝島平安教会担任教師就任
◇川浦弥生（神学科68回卒）
札幌元町教会主任担任教師就任
◇島耕一（神学科53回卒）
鶴川教会主任担任教師就任
◇反町潤平（神学科61回卒）
八雲教会辞任
◇三河豊（神学科45回卒）
信濃村教会辞任

2025 年度 新入生紹介



1 年 竹田英司

竹田英司と申します。からしだね程の信仰心もなく、結婚したいと念願した女性の母親から、「娘にはクリスチャンと結婚してほしい」と言われたことから宗旨替えしました。

その後、結婚↓北海道へ移住↓離婚↓帰郷英語教師↓男子バレーボールチームマネジャーとして、神様からの賜物でチームに貢献、ファンという支援者を幸福にする、という貴重な体験ができました。コロナ禍で失職中、「この苦境を乗り越えられたら献身します!」と思わず祈り、農伝に入った次第です。今は、①禪キリスト教②オルガン③農業④中国語⑤宣教学特講を特に楽しみにしています。

牧師からは最後まで神学校進学を反対されました。今となつてはその親心が理解できます。わたしは、霊的な格闘にあり、この自己との戦いに前進するためには、皆様からのご指導とご支援を必要としております。覚えていただきませう、宜しく願い申しあげます。



1 年 奈良聡久

奈良聡久です。入学後、事情により休学せざるを得ないことになりました。本校教師皆様による講義、深く心に残りましたことを記しまして、報恩謝徳の意を表したく存じます。

宣教学特講では、司牧の中でご自身がいかにか人を傷つけてきたかを伺い、うなりました。農村伝道論では、農と貧困の問題、それは、サモアの少年との出会い、ソマリアの海賊などの実体験をもとに学びを展開されていたこと、東北半島に残る倭人のアイヌ民族への侵略が民話として残されていることなどを伺い、ガツンときました。植物的な神学、都市化、パレチナ解放に賛同します。「霊性とキリスト教倫理」では、サルトルに傾倒する先輩との出会いから高森草庵へ至る道行き、ソウルでの民衆の抵抗と蜂起という出来事に直面したことなどを静かに耳を傾けました。

その他ここに書き切れませんが、ありがとうございます。



1 年 西窪幸子

はじめまして。西窪幸子です。農村伝道神学校を知ったのは三十年くらい昔、教会学校の遠足で芋掘りに行った時でした。その後、ヨガとアーユルヴェーダに出会ったことから瞑想をするようになりました。石井智恵美先生が授業でアントニー・デ・メロ神父の『東洋の瞑想とキリスト者の祈り』を取り上げていたことからこの学校に興味を持つようになりました。

私にはどうしても自分では変えられない性格上の問題がありまして、祈り方が良くなかったのかも知れませんが、それは祈りでは解決しませんでした。でも、長く瞑想を続けるうちにそれらは目ずと鎮まり、聖書の御言葉も心に深く染み込むようになりました。

マザーテレサの家で洗濯物を干していた時、「いのち」のかけがえのなさを突然知りました。「いのち」と身体と農は切っても切り離せないものです。農村伝道神学校で学べることは私にとって大きな恵みです。



1 年 牧田東一

新入生の牧田東一です。カトリック・イエズス会の中高一貫校でまなび、そこで初めて聖書を学びました。第2バチカン公会議前のカトリックの教えは今から見ると随分と厳しく、聖書は好きでしたが、キリスト教からは遠ざかっていました。大学では最初は分子生物学を学び、後に、文化人類学に移りました。卒業後、民間の財団で、東南アジアの国々での援助の仕事につきました。その後、桜美林大学で国際協力の教員をしました。国際協力の授業で「宗教と開発」というテーマで、解放の神学に興味を持つようになりました。先妻と死別して、クリスチャンの女性と再婚したことを契機に、渡辺英俊牧師の説教に惹かれてなにか伝道所に通いました。その後紅葉坂教会に通うようになり、同教会の荒井仁牧師から受洗しました。国際協力の現場と教育にかかわったことから、国際協力(例えば、国際法)とキリスト教倫理の関係について学んでいきたいと思っています。



1 年 真鍋 泉

私が受洗したのは22才の時です。幼児の頃、母に連れられて教会に行つたのが、キリスト教との出会いでした。教会から離れることもありました。神学校に憧れを抱くようになったのは、社会人の時に関田寛雄先生の講義を受けたことがきっかけです。聖書に聞きたいい。イエス・キリストをもっと身近に感じたいと思うようになりました。時がたち、思いが薄れていく中で私の背中を押してくれたのは、昨年聴講した宣教学特講でした。学びを通して、社会と切り離されたところに福音はないと感じました。入学して1カ月、既に多くの学びがあります。特に平和の問題に向き合う時、信仰を持ちながらも時代に飲み込まれてしまつた人々を、簡単に批判して済ますことはできないと思わされています。様々なかたちで「小さくされた」人々に学ぶことは痛みを伴いますが、農伝と、所属の川崎戸手教会の皆様のお支えに心から感謝して学び続けていきたいと思っています。

2025 年 3 月 5 日卒業式
「福音を生きる」 ローマの信徒への手紙 1 章 16 節

小畑 太作 (西中国教区総会議長)

はじめに

卒業生の皆様、本日はおめでとうございます。わたしから申し上げたいことは、月並みですが、唯々、「福音を宣べ伝える」者として歩みましょう、ということです。

包括的福音

しかし「福音を宣べ伝える」というと、あれではない、これではない、という具合に福音を様々なことと分離することが多いのです。そして残った「福音伝道」は、教勢拡張主義というのがよくあるオチです。その際に持ち



出されるのが使徒言行録で「初代教会の使徒たちも御言葉に専念して食べ物配は切り離してギリシア語を話すユダヤ人に委ねたじゃないか」といわれたります。その教会を使徒言行録は批判しています。なぜならその後、御言葉を語り始めるのは給食係に選ばれた人々なのです。いにしえの使徒たちは棄をしようとしたのですが、全てを包括する福音を宣べ伝える者であつて欲しい、全てのことの根底に福音宣教を置いて、取り組んでいきたいということです。

個別的福音

とはいえ、大局的にだけ見ればよいわけではありません。むしろ個別に見ることこそ重要なのです。その人によつて何が良い知らせであるかは一様ではないのです。今日それは、人としての権利、人權の更の中核を為す人格権として捉えられつつあるものです。聖書の言葉でいえば「人はパンだけで生きるものではない。」(マタイ 4・4)のです。その人として、あることが重要なのです。「たとえ全世界

を手に入れても、自分の身を滅ぼしたり、失つたりしては」(ルカ 9・25) 何にもなりません。

憲法では「個人として尊重される(13条)」がこれに当たるといわれています。これは実現途上です。先に、靖国天皇制問題について判決が出ました。いづれも半ば人格権の侵害を認めながら、「軽度」、あるいは「かなり間接的」といい、裁判所は、被害者の請求権を認めず、憲法判断も避けました。

これに関して、直接天皇崇敬体制を再生することは多くはないかもしれませんが、間接的に支持する事案は多々あります。そのうちの幾つものが政教分離原則に違反しているようです。人格権の侵害です。卒業される皆さんが遭わされる地にもほぼ間違ひなくあります。共に取り組めることを願っています。

神の力を生きる

福音を宣べ伝えることについて3つめ、福音宣教とはいいい方を換えれば変化をもたらすことです。「悔い改めて福音を信じなさい」(マルコ 1・5)とイエス・キリストは宣教を開始しましたが、しかし人、世界はなかなか変わりません。するとすぐにこう思うのです。「もつと力があれば」と。それは誘惑です。今

ある沢山の恵みを、まるでないかのようにしてしまっています。自分自身も神の前においては掛け替えのない一人であること、さらに、比類のない偉大な者であることを見失わせてしまっています。そうして卑屈になつてしまえば、どうして他者の人格を呼び覚ます福音を宣べ伝えられるでしょうか。

先の『信徒の友』(25年2月号)に、西中国教区は全国でいちばん無牧師率の高い教区であると紹介されていました。牧師そのものが減っていることも一つの要因ですが、それ以上に当教区内の教会の多くは財政的な問題から牧師を招聘できないのです。すると当然のごとく「お金が足りない、人が足りない!」「どうしたら増えるのか!」「それ、伝道だ!」という三段論法に陥りがちです。しかし「それは本当に伝道でしょうか」「建てられている地にある問題に向き合おうとしているでしょうか」「その問題を追わされている人を見遇ごしにしないでしょうか」「そもそも必要とされる教会となつているかを問うてみましょう」と。イエス・キリストは、「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。」

(マタイ 6・33)といわれました。「そうすれば」といわれているのに「そうしない」で、思い煩い続けているのが日本基督教団あるいは教会といつてよいのかも知れません。どうしてしないのか。わたしが思うには力を求めるからなのです。

おわりに

使徒パウロはこう言いました、「わたしは福音を恥としない。福音は、ユダヤ人をはじめ、ギリシア人にも、信じる者すべてに救いをもたらす神の力だからです。(ローマ 1・16)」託された使命を違えることなく、神の義を秘めた福音を宣べ伝える者として、自ら神の力を生きる者として、共に歩めることを願っています。

祈り

初めであり終わりである神よ、神学校での学びの時を終え、あなたの御旨に従おうと歩み始める方々をどうか祝し用いて下さい。遭わされる地において、福音を宣べ伝える者として下さい。苦難が襲う時、どうか聖霊が慰め励まして下さるように。道であり、真理であり命であるイエス・キリストの御名によつて祈ります。アーメン。